

昭和28年の大水害、米軍による救助の記録

会期：令和7年6月3日(火)～6月30日(月)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年11月12日に寄贈された「CHIKUGO RIVER RAMPAGE(筑後川^{けっかい}決潰)

」は、昭和28年(1953)に発生した西日本水害による筑後川の被害をまとめた写真集です。編集は板付基地新聞、印刷は金子印刷です。写真は板付基地の米軍が撮影しており、水に沈んだ久留米市街地や、米軍が被災者を救助する様子などが収められています。この水害は、今でも「28水」と呼ばれ、人々の記憶に残る大水害として知られています。

●No.1 水に沈んだ久留米市街地

「市街地の浸水」

「久留米病院へ犠牲者を運ぶプロペラ船」

左の写真は、現在の京町辺りから北東に向かってブリヂストンの工場周辺を撮影したものです。手前の家々は屋根の近くまで水に浸かっています。

右の写真では、米軍のプロペラ船が久留米病院に被災者を運んでいます。同病院は、明治22年(1889)京町に開業し、昭和3年(1928)に現久留米大学病院の附属病院となりました。画面右端では、屋上に避難したと思われる人々の姿が見え、身を乗り出して浸水の様子を眺めています。

【No.1】



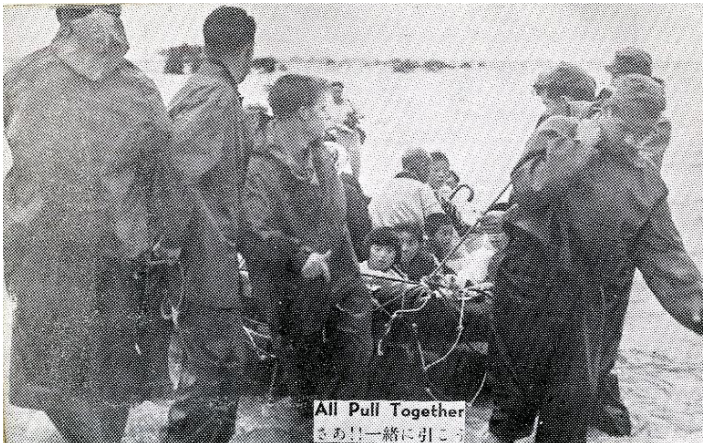
【表紙写真】

●昭和28年(1953)西日本水害

昭和28年6月25日～29日にかけて北部九州(福岡県、佐賀県、熊本県、大分県)を中心に発生した、集中豪雨による水害です。総降水量1,000ミリを超える記録的な豪雨により、九州最大の河川である筑後川をはじめ、九州北部を流れる河川がほぼすべて氾濫し、死者・行方不明者は1,001名、被災者数は約100万人という大災害となりました。河川の^{はんらん}氾濫は、各地で^{きょうりょう}橋梁の流失、堤防の崩落、道路の損壊など、甚大な被害を引き起こしました。

久留米市では、6月25日の降水量は317mm、28日までの4日間で657.0mmと、平年の4～5倍を記録しました。

【No.2】



●No.2 救助される人と犬

「さあ!!一緒に引こう」

「最良の友は見捨てられない！」

左の写真では、人々が乗ったボートを、米兵が引っ張って移動しています。子どもを含め、ボートに乗った人々は不安そうな顔つきです。右の写真では、一頭の犬が米兵の小脇に抱えられて救助されています。この犬は、本資料の別写真にも写っており、そこでは倒れた看板の上に取り残されていました。



【別写真】取り残されている犬

【No.3】



●No.3 逃げる人、取り残される人

「残った僅かな品物を運ぶ人々」

「商店に取り残された人々(久留米にて)」

左の写真では、人々が川と化した道路を避難しています。手元に残った日用品などを持ち、水しぶきをあげながら移動する人々からは、緊迫した雰囲気が伝わってきます。右の写真では、店の中に3人の子どもが取り残されています。店の周囲は、水位が店の床近くまで上がっています。